

平成27年度 第2回学校アンケートの結果&考察

東大阪市立英田北小学校

○7～11月の教育活動について点検を行い、今後の改善に生かすことを目的として12月に実施。

○各設問の集計結果を「多変量解析」という手法で算出した数値で表記。算出方法及び値の解釈は次のとおりです。(本市学習等状況調査でも使われている手法です)

〔今回、学校教育と関わり深いカテゴリーを設定し、それに関係する質問項目の多変量解析値の平均も求めてみました。〕

【多変量解析値の算出方法及び値の解釈】

$$\left[\text{より肯定的な回答数} \times 1 + \text{肯定的な回答数} \times 0.5 + \text{否定的な回答数} \times (-0.5) + \text{より否定的な回答} \times (-1) \right] \div \text{全回答数} \times 100$$

*上の式により、多変量解析の最低値は「-100」、最高値は「+100」。

*「0」の時で賛否五分五分のときの値となります。今回は便宜上、以下のように本校独自に値を解釈しています。

- ・「+60以上」(+60は、順に45%、45%、5%、5%の時に相当) → かなり評価(かなり認識)
- ・「+45以上60未満」(+45は、順に40%、40%、10%、10%の時に相当) → 一定評価(一定認識)
- ・「+15以上45未満」(+15は、順に30%、30%、20%、20%の時に相当) → さらに工夫を要する
- ・「+15未満」 → 取組内容や取組方法の再検討・見直し、あるいは取組の更なる推進が必要

*誤差を考慮して、前年度(第1回)との差が±15までは、同程度の値と見なせると考えていますが、±8～±15の範囲の場合に、表中であえて「やや↑」や「やや↓」の表記を行っています。

第1回 学校アンケート結果

○児童(1～6年一括) 回収率 96%

		H27学校アンケート②【児童】 (高学年・低学年共通の設問は、高学年用文面で表記)	多変量解析値		
			今回	H27.7 比較	H26.12 比較
共	1	友達や先生、愛ガードなどの人達とあいさつができています。	79	→	→
共	2	英田北小は、きれいにそうじができていて、気持ちよく過ごせる。	46	→	→
共	3	朝の学習や読書に、しっかりと取り組んでいる。(1時間目が始まる前に行うプリント学習などのことです)	76	→	→
共	4	授業は、わかりやすい。	69	→	やや↑
共	5	授業などで自分の考えをまとめたり、発表したりすることが多い。	29	→	→
共	6	授業で友達の発表を終わりで聞いて、質問したり自分の意見を言ったりすることができています。	48	→	→
共	7	命の大切さや人の気持ちを考えること、ルールを守ることなどについて勉強することがある。(ふれあい広場・遠足・社会見学などの時も含む)	75	→	→
共	8	委員や係、当番(日直・給食・そうじ)などの役割をしっかりと果たそうとしている。	85	→	→
共	9	学校生活の中で、みんなと協力することの良さやみんなの思いやりに気づくことがある。	74	やや↑	やや↑
共	10	授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。	41	→	やや↑
共	11	先生は、わたしたちの意見を聞いてくれる。	69	→	→
共	12	先生は、がんばったことをほめてくれる。	66	→	→
共	13	学校で困ったことがあったら先生に相談できる。	41	→	→

高	14	困ったことがあれば、友達や家の人に相談できる。	51	→	→
高	15	将来の夢や目標を持っている。	74	→	→
		習慣規律 [1, 2, 3, 6, 7, 8]	68	→	→
		学習指導 [4, 5, 6, 7, 10, 12]	55	→	→
		教師児童関係 [10, 11, 12, 13]	54	→	→
		児童相互関係 [6, 8, 9, 14]	65	→	→

・15設問中、「+60以上」が9項目、「+45以上」だと12項目、残り3項目が「15以上+45未満」。「評価・認識」は、前年度同期比で一部に上昇傾向がみられたが、今年度7月比ではほぼ横ばい。

・「設問5(学習活動)」は、依然と課題。

・分野別に見た場合、「全分野『かなりの評価・認識』達成」までもう一息のように見えるが、「学習指導」「教師児童関係」においては、誤差の範囲とはいえ7月に比べ値が減少していることが気になり。

○保護者 回収率 92%

		H27学校アンケート②【保護者】	多変量解析値		
			今回	H27.7 比較	H26.12 比較
1	学校は、児童が「思いやりを備え、自他共に大切にできる」「協力しあおうとする」よう取り組んでいる。(児童会活動や行事等も含めて回答ください)	53	→	→	
2	学校は、「頑張ってきた」や「自分にだって結構いいところある、他の人たちに少しは役立っている」などといった気持ちを児童が持てるよう取り組んでいる。(児童会活動や行事等も含めて回答ください)	50	→	→	
3	学校は、「すぐにはあきらめず最後までやり遂げよう」とする気持ちを児童が持てるよう取り組んでいる。(児童会活動や行事等も含めて回答ください)	47	→	→	
4	学校は、まちがった行動への指導や、(社会の)ルールを守ろうとする意識を高める取り組みを行っている。(行事等も含めて回答ください)	50	→	→	
5	学校は、保護者・地域の願いに応えている。	30	→	→	
6	学校は、いじめのない学校づくり(集団づくり・つながり)に取り組んでいる。	30	→	→	
7	学校は、児童の安全確保、事故防止に取り組んでいる。	55	→	→	
8	台風などの場合の学校対応(集団下校を含む)について、保護者は知らされている。	85	→	→	
9	学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている。	55	→	→	
10	学校は、教育活動(各種取組、学習内容、進捗等)を、学校・学年・学級たよりやHP、その他によってわかりやすく伝えている。	59	→	→	
11	子どもは、授業がわかりやすいと言っている。	50	→	→	
12	子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。	62	→	→	
13	先生は、子どもをよく理解してくれている。	49	→	→	
14	先生は、子どものことについての相談に応じてくれる。	54	→	→	
15	先生は、子どもの人権を大切にして指導にあたっている。	51	→	→	
		教育活動 [1, 2, 3, 4, 6, 11, 15]	47	→	→
		学習指導 [11]	50	→	→
		安全安心 [6, 7, 8, 15]	55	→	→
		信頼 [5, 6, 9, 12, 13, 14, 15]	47	→	→
		公開 [8, 10]	72	→	→

・15設問中、「+60以上」が2項目、「+45以上」だと13項目、残りはずべて「+15以上+45未満」。7月や昨年度同期の結果とほぼ同じ。

・分野別「評価・認識」では、「学習指導」が初の+50台になるも、「信頼」が再び+40台に戻った。

・「設問5(願いへの対応)」「設問6(いじめのない学校づくり)」の「評価・認識」の値が他の設問に比べ低い上に、誤差の範囲とはいえ減少も見られていたことが大いに気になり。

～裏面にも掲載しております。ご覧ください。～

内容が共通する項目における児童、保護者、教職員の回答結果

注1) 表の左は回答者を表し、「保」は保護者、「教」は教職員、「児」は児童。

注2) 表中「7月差」は今年度(第1回)の値との差、「前年差」は前年度同時期の値との差。

【めざす子ども像関係】 教育目標 「すべての子どもに、生きる喜びとあすをつくる力」

めざす子ども像 ◇命を大切にする子 ◇夢を持ち続ける子 ◇人にやさしくできる子 ◇よく考える子

	今回	7月差	前年差		今回	7月差	前年差
保	50	→	→	保	53	→	→
教	67	→	→	教	68	→	→
保	47	→	→	児	79	→	→
教	56	→	→	保	75	→	→
児	66	→	→	教	74	↑	↑
保	85	→	→				
児	74	→	→				

が、保護者との間には少々のギャップがある模様。教職員ともまだ満足していない様子うかがえる。

【子ども理解】

	今回	7月差	前年差
保	51	→	→
教	69	↑	→

【児童との関係・生活指導】

	今回	7月差	前年差		今回	7月差	前年差
保	69	→	→	保	41	→	→
教	67	→	→	教	37	→	→

「子どもの意見への傾聴」に関する評価・認識は児童、教職員ともに高い。「相談」に関しては、児童においては誤差の範囲で横ばいだが、「一定の評価・認識」を割った値となった。また、教職員の評価・認識の値も初めて+40を割った。

【道徳性・人権尊重】

	今回	7月差	前年差		今回	7月差	前年差
保	75	→	→	保	51	→	→
教	50	→	→	教	51	→	→
保	30	→	→				
教	49	↑	↑				
保	60	→	→				
教	62	↑	↑				

【清掃・校内美化】

	今回	7月差	前年差
保	46	→	→
教	45	→	↑

児童にトイレの使い方に課題があると思われ、効果ある指導・啓発を要する現状がある。

【今年度、特に設けた設問】 注3) 表中、児童の「前年度」は前年度1月実施の市調査結果の値との差。

	今回	7月差	前年差
保	67	→	↑
保	5	↓	↑

緊急対応課題であった両設問とも前年度より改善(特に英語活動)がうかがえるが7月調査時より失速。「家庭連携」は未だ課題。

【学習指導】

	今回	7月差	前年差		今回	7月差	前年差
保	69	→	↑	保	76	→	→
保	50	→	→	教	63	↑	→
保	41	→	↑	教	63	↑	↑
保	29	→	→	保	72	→	→
保	48	→	→	保	60	→	→
保	60	→	↑	保	43	↑	→

児童の「通常授業」に対する評価・認識は感覚的には高いが、具体的活動になると保護者の評価・認識に近い。教職員自身の評価・認識との相関がどちらに近いかは設問により異なる。「朝の学習や読書」については、児童集会の日以外は実施を基本としていることから、質・量をふまえた教職員の評価・認識の方向が目立って低いのは当然のことといえる。

【説明・連携、その他】

	今回	7月差	前年差		今回	7月差	前年差
保	59	→	→	保	30	→	→
保	85	→	→	教	45	↑	↑
保	62	↓	↓	保	55	→	→
保	55	→	→	保	68	↑	↓
保	60	↑	↓				

評価・認識の値に関わらず「説明」「連携」「対応」「安全」に下降傾向がうかがえる。教職員・保護者間で評価・認識の差が大きい「対応」「安全」が課題であるが、「安全」の値の下降は、安全対策のふりかえりをよく行ったことが影響していることが考えられる。

児童・保護者の評価・認識を全体的にみた場合、ともに例年と同様に7月調査時より誤差の範囲内ではあるものの微減状況にありました。ただし、この方式で調査を開始したH24年度時との比較では共に「やや上昇」と判定可能です。

【めざす子ども像関係】の結果から、本校教育活動が教育目標等との達成に概ね効果的と判断できますが、児童の「根気・粘り強さの育成」に関しては不十分と見なせます。児童個々の実態を踏まえた対応を要することから、ジレンマを抱えながらの指導実態がうかがえます。【人権尊重】の結果にも指導上のジレンマが影響しているかもしれません。真の教育成果は「人権が尊重された教育」からしか生まれず、これに徹した教育活動の推進に引き続き取り組んで参ります。

緊急対応課題のうち、【英語活動】については十分な対応効果を受け取ることができましたが、【家庭学習】については対応効果を得られたというものの家庭連携が未だ大きな課題です。

本年度重点課題である「学力向上」に関しては、【学習指導】の結果から、対策(朝学習・放課後学習等、授業研究、学力調査結果検証、他)が一層組織的対応として進めたことが確認できた一方で、継続的に育成していく力(思考、判断、表現)や習得させる教科内容を明確にして全教員が学習指導を進めていけるよう対策を充実させることが次なる課題と考えています。

学習指導を含む意図的な教育活動はもちろん、日々の出来事(もめ事等)についても、子どもたちがそのことを「考え」、「気づき」、そして「学ぶ」ことを通して、「つながり」や「思いやり」等を醸成し、成長していく機会になります。こういうことが起こる場所(=安心してモメられる場所)づくり、それが「学級集団づくり」と考えております。子どもたちがモメながらも安心して学べる学級が「安心な居場所」です。保護者、地域の皆様には、このような視点も踏まえてお子さまの学校生活を捉えていただけるとう有難いです。今後とも本校教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

いかなるアンケートや手法を用いても、状況を一面的にしか捉えきれないことにもご留意下さい。